

2026年クレーンゲームのトレンド予想について — 台湾キャッチャーを中心とした新感覚クレーンゲームの広がり —

クレーンゲームに関する資格『クレーンゲームの達人検定(以下、くれ達検定)』を唯一認定・発行する一般社団法人日本クレーンゲーム協会(代表理事: 中村秀夫/所在地: 埼玉県行田市)は、2026年に向けた国内クレーンゲーム市場の動向を分析した結果、**台湾式クレーンゲーム(通称: 台湾キャッチャー)**に代表される**新感覚の遊技形式が、今後のトレンドの一つとして注目される可能性がある**と考えています。

台湾キャッチャーは、景品を「掴んで投げる」「転がす」といった動作を特徴とするクレーンゲームで、従来の日本のUFOキャッチャーとは異なり、アームが景品を大きく動かし、その過程を楽しめる点が特徴です。プレイ中の挙動が視覚的に分かりやすく、新しい体験価値を提供する遊技形式として注目されています。

トレンドとして注目される背景

当協会の調査および業界動向の整理によれば、台湾キャッチャーは**2024年頃から本格的に導入が進み、2025年には比較的短期間で設置や認知が広がった**遊技形式の一つと捉えられます。この流れを受け、2026年に向けては、これまでクレーンゲームに馴染みのなかった層を含め、**より幅広い利用者に認知が進んでいく可能性がある**と考えています。

近年のクレーンゲームでは、単に獲得の成否を競うだけでなく、景品が動く過程や演出そのものを楽しむ体験志向が強まっています。また、プレイ中の動きが直感的に理解しやすく、周囲で見ている人にも分かりやすい点は、ファミリー層や初心者にも受け入れられやすい要素といえます。

健全な運営に向けた協会の考え方

当協会は、台湾キャッチャーを含むすべてのクレーンゲームにおいて、利用者が仕組みを理解したうえで安心して楽しめる環境づくりが重要であると考えています。

具体的には、分かりやすい設置や表示、過度な誤認を招かない演出や難易度設定、年少者を含む幅広い利用者への配慮、店舗スタッフによる適切な説明対応など、**透明性の高い運営**が今後ますます求められます。

今後の展望

台湾キャッチャーは、従来のクレーンゲームを代替するものではなく、遊び方の選択肢を広げる存在として位置づけられると考えられます。今後は、日本の利用環境や文化に合わせた独自の進化や新しい遊技表現が生まれる可能性もあります。

当協会としては、こうした動向を注視しつつ、業界全体で健全な運営意識を共有し、クレーンゲーム文化の持続的な発展に寄与してまいります。

協会コメント

クレーンゲームは、遊び方や表現が時代とともに進化してきました。新しい形式についても、利用者の理解と安心を第一に考えながら、業界全体で健全な発展を目指していくことが重要であると考えています。

【ご連絡・お問い合わせはこちら】

団体名: 一般社団法人 日本クレーンゲーム協会
広報担当者: 中村秀夫
広報部直通電話: 070-3607-2852
広報直通メール: toyo-press@toyo-egroup.jp

住所(本社): 埼玉県行田市下忍644-1
電話番号: 050-6877-5614
コーポレートサイト: <http://kuretatsu.com>